

エタネルセプト BS 皮下注 10mg シリンジ 1.0mL「TY」 エタネルセプト BS 皮下注 25mg シリンジ 0.5mL「TY」 エタネルセプト BS 皮下注 50mg シリンジ 1.0mL「TY」

【この薬は？】

販売名	エタネルセプトBS 皮下注10mgシリンジ 1.0mL「TY」 Etanercept BS 10mg Syringes 1.0mL for S.C. Inj.「TY」	エタネルセプトBS 皮下注25mgシリンジ 0.5mL「TY」 Etanercept BS 25mg Syringes 0.5mL for S.C. Inj.「TY」	エタネルセプトBS 皮下注50mgシリンジ 1.0mL「TY」 Etanercept BS 50mg Syringes 1.0mL for S.C. Inj.「TY」
一般名	エタネルセプト（遺伝子組換え）[エタネルセプト後続2] Etanercept(Genetical Recombination) [Etanercept Biosimilar 2]		
含有量 (1シリンジ中)	10mg	25mg	50mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗リウマチ薬と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、異常に増えている腫瘍（しゅよう）壊死因子（TNF）という炎症や痛みの発現にかかわっている物質に作用し、関節リウマチの症状を改善します。

- ・次の病気の人に処方されます。

〔エタネルセプトBS皮下注10mgシリンジ1.0mL「TY」、エタネルセプトBS皮下注25mgシリンジ0.5mL「TY」〕

既存治療で効果不十分な下記疾患

○関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）

○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎

〔エタネルセプトBS皮下注50mgシリンジ1.0mL「TY」〕

既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 患者さんや家族の方は以下の点について十分理解できるまで説明を受けてください。理解したことが確認されてから使用が開始されます。

- ・この薬を使用することにより、結核、敗血症を含む重篤な感染症および脱髄疾患（だつずいしっかん）（多発性硬化症など）が発生したり悪くなったりすることがあります。
- ・この薬との関連性は明らかではありませんが、悪性腫瘍があらわれたとの報告があります。
- ・この薬は病気を完治させるものではありません。

また、重篤な副作用により、致命的な経過をたどることがありますので、副作用があらわれた場合にはただちに主治医に連絡してください。

- この薬の使用により致死的な感染症（敗血症、真菌感染症を含む日和見感染症など）、結核〔播種性結核（はしゅせいけっかく）および肺外結核を含む〕による死亡例が報告されています。すでに結核に感染している人では結核の症状があらわれたり悪くなったりすることがあるので、使用する前に問診および胸部レントゲン検査に加え、インターフェローンγ遊離試験またはツベルクリン反応検査、場合によっては胸部CT検査などが行われます。過去に結核にかかったことのある人、または感染が疑われる人は、必要に応じて抗結核薬を使用した上でこの薬を使用します。
- 脱髄疾患の人や過去に脱髄疾患であった人には使用できません。また、脱髄疾患が疑われる人や血縁に脱髄疾患になった人がいる人は画像診断などの検査が行われます。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・敗血症の人またはその可能性がある人
 - ・重篤な感染症の人
 - ・活動性結核の人
 - ・過去にエタネルセプトBS皮下注シリンジ「TY」に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・脱髄疾患（多発性硬化症など）の人および過去に脱髄疾患であった人
 - ・うっ血性心不全の人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・感染症にかかっている人または感染症が疑われる人
- ・過去に結核にかかったことのある人または結核にかかったことが疑われる人
- ・感染症にかかりやすい状態にある人
- ・B型肝炎ウイルスキャリアといわれている人、または過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがある人（HBs抗原が陰性で、かつHBc抗体またはHBs抗体が陽性の人）
- ・脱髄疾患が疑われるような徴候がある人および血縁に脱髄疾患になった人がいる人
- ・重篤な血液疾患（汎血球減少、再生不良性貧血など）の人または過去に重篤な血液疾患になったことがある人
- ・間質性肺炎になったことがある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○B型肝炎ウイルスキャリアといわれている人、または過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがある人（HBs抗原が陰性で、かつHBc抗体またはHBs抗体が陽性の人）がこの薬を使用すると、B型肝炎ウイルスの再活性化があらわれる可能性があります。このため、この薬を使用する前に血液検査で、B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを確認されます。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

〔関節リウマチの場合〕

通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	10～25mg	25～50mg
注射回数	1日1回を 3～4日に1回	1日1回を 1週間に1回

〔多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎の場合〕

通常、小児の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	体重1kgあたり0.2～0.4mg*
注射回数	1日1回を3～4日に1回

*ただし、1回量は25mgまでです。

●どのように使用するか？

- ・皮下注射してください。巻末の「自己注射の方法」、自己注射のための小冊子「エタネルセプトB S皮下注シリンジ「TY」自己注射手順ガイド」もあわせて参照してください。
- ・注射の前には注射器を冷蔵庫から出して室温で15～30分おき、室温に戻しておいてください。室温に戻るまでは、この薬の注射針のキャップをはずさないでください。
- ・注射の前に必ず、注射容器内に異物がないかを確認します。粒や塊があったり、色がついていたり、にごったりしている場合には使用しないでください。
- ・1回の注射について注射器は1本または2本です。1回に全量を使用し、再使用しないでください。
- ・注射部位反応（紅斑、発赤、疼痛、腫脹、そう痒感）が報告されていますので、注射するたびに注射部位を大腿（だいたい）部、腹部、上腕部などというように順序良く移動して、短期間に同一部位へ繰り返して注射しないようにしてください。新しく注射する部位は、前回の注射部位から少なくとも3cm離してください。
- ・皮膚が敏感なところ、傷があるところ、発赤または硬結（周りより硬くなっている部分）への注射は避けてください。
- ・使用済みの注射器などは医療廃棄物となりますので、その取り扱いには十分注意し、医療機関から指示された方法にしたがって子供の手の届かないところに保管してください。

●使用し忘れた場合の対応

- ・決して2回分を一度に使用しないでください。
- ・気がついた時に、1回分を注射してください。
- ・その後は1週間に1回または3～4日に1回となるよう次の注射を行ってください。（ただし、次に使用する時間が近い場合はその回は使用せず、次の指示された時間に1回分を使用してください。）

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

〔医療機関で 사용되는場合〕

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において皮下に注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は、免疫反応を調整する物質の作用を抑えるので、感染症にかかりやすくなる場合があります。発熱、発熱の持続、倦怠感（けんたいかん）、咽頭痛、挫傷、蒼白など血液障害や感染症を疑う症状があらわれた場合には、ただちに主治医に相談してください。
- ・過去に結核にかかったことのある人で、結核が疑われるような症状（持続するような咳、発熱など）があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・B型肝炎ウイルスキャリアといわれている人、または過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがある人は、肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーの定期的な検

査が行われます。B型肝炎ウイルスの再活性化が起こっていると思える症状（発熱、倦怠感、皮膚や白眼が黄色くなる、食欲不振など）があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。

- ・この薬を使用している間は生ワクチン〔麻疹（はしか）、風疹（ふうしん）、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、BCG、ポリオ（小児マヒ）など〕の接種はできません。接種の必要がある場合には主治医に相談してください。
- ・注射部位に紅斑、発赤、疼痛、腫脹、そう痒感などの注射部位反応あるいは注射部位出血などがあらわれることがありますので注意してください。
- ・この薬を使用するにあたって、患者さんや家族の方は危険性や対処法について十分理解できるまで説明を受けてください。また、患者さん自身で注射をした時に副作用と思われる症状があらわれた場合や注射を続けられないと感じた場合は使用を中止し医師または薬剤師に相談してください。
- ・一度使用した注射器は再度使用してはいけません。使用済みの注射器の廃棄方法などについて十分理解できるまで説明を受けてください。
- ・この薬で乾癬があらわれたりまたは悪くなったりすることが報告されています。このような場合には医師に相談してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・妊娠中にこの薬を使用したお母さんから生まれた赤ちゃんが生ワクチン接種を受ける時には、接種の前に医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
重篤な感染症（敗血症、肺炎（ニューモシスチス肺炎を含む）、真菌感染症等の日和見感染症） じゅうとくなかんせんしょう（はいけつしょう、はいえん（ニューモシスチスはいえんをふくむ）、しんきんかんせんしょうとうのひよりみかんせんしょう）	発熱、寒気、脈が速くなる、体がだるい、咳、痰、息切れ、息苦しい
結核 けっかく	寝汗をかく、体重が減る、体がだるい、微熱、咳が続く
重篤なアレルギー反応 じゅうとくなアレルギーはんのう	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
重篤な血液障害 じゅうとくなけつえきしょうがい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ

重大な副作用	主な自覚症状
脱髄疾患 だつずいしつかん	まひ、顔の異常な感覚、手足の異常な感覚、見えにくい、意識の低下
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
抗 d s DNA 抗体の陽性化を伴うループス様症候群 こうディーエスディーエヌエーこうたいのようせいかをともなうループスようしょうこうぐん	発熱、関節の痛み、むくみ
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis : T E N) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう (デン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (ステーブンスージョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節や喉の痛み
抗好中球細胞質抗体 (A N C A) 陽性血管炎 こうこうちゅうきゅうさいぼうしつこうたい (エイエヌシーエイ) ようせいけっかんえん	血尿、鼻水、鼻づまり、咳、喉の痛み、発熱、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
ネフローゼ症候群 ネフローゼしょうこうぐん	尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、息苦しい、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい、体重の増加
心不全 しんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、寒気、体がだるい、寝汗をかく、体重が減る、微熱、ふらつき、出血が止まりにくい、まひ、むくみ、疲れやすい、力が入らない、体重の増加
頭部	頭が重い、意識の低下
顔面	鼻血、顔の異常な感覚、鼻水、鼻づまり
眼	見えにくい、目の充血やただれ
口や喉	咳、痰、咳が続く、喉のかゆみ、喉の痛み、歯ぐきの出血、吐き気、唇や口内のただれ

部位	自覚症状
胸部	息切れ、息苦しい、動悸
腹部	食欲不振
手・足	脈が速くなる、手足の異常な感覚、関節の痛み、関節や喉の痛み
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、あおあざができる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮下出血によるあざ、皮膚の潰瘍
尿	血尿、尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、尿が赤みを帯びる

【この薬の形は？】

販売名	エタネルセプト BS 皮下注 10mg シリンジ 1.0mL 「TY」	エタネルセプト BS 皮下注 25mg シリンジ 0.5mL 「TY」	エタネルセプト BS 皮下注 50mg シリンジ 1.0mL 「TY」
形状	注射剤(プレフィルド シリンジ) 	注射剤(プレフィルド シリンジ) 	注射剤(プレフィルド シリンジ) 
性状	無色～淡黄色澄明の液		

【この薬に含まれているのは？】

販売名	エタネルセプト BS 皮下注 10mg シリンジ 1.0mL 「TY」	エタネルセプト BS 皮下注 25mg シリンジ 0.5mL 「TY」	エタネルセプト BS 皮下注 50mg シリンジ 1.0mL 「TY」
有効成分	エタネルセプト（遺伝子組換え）[エタネルセプト後続2]		
添加物	精製白糖、グリシン、クエン酸ナトリウム水和物、塩化ナトリウム、リン酸二水素ナトリウム、塩酸、水酸化ナトリウム		

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・光と凍結を避けて冷蔵庫など（2～8℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●この薬の廃棄方法は？

- ・使用済みの針及び注射器については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：株式会社陽進堂 (<https://www.yoshindo.co.jp/>)

お客様相談室

電話：0120-670-027

受付時間：9時～17時

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）

- ・自己注射のしかたに関するお問い合わせは下記へお問い合わせください。

「TY」ダイヤル24-自己注射サポートセンター（患者さん専用）

電話：0120-890-012 24時間対応

自己注射の方法

〔注射に必要な物〕

- お薬
(エタネルセプトBS
皮下注シリンジ「TY」)



- 補助具
(必要な方のみ)



- 自己注射準備マット



- アルコール綿

※ 市販品または医療機関から支給された
アルコール綿を用意してください。



- 絆創膏
(必要な方のみ)
※ 注射のあとが気になる方は
注射後に使用してください。



- 廃棄ボックス
- 注射の記録ノート



〔シリンジの準備〕

① 冷蔵庫からシリンジの入った箱を取り出します。

- 箱に記載されているお薬の名前、用量、使用期限を確認します。

※ 使用期限が切れたお薬は使用しないでください。

- シリンジが入ったプラスチックケースを箱から取り出し、平らな場所に15～30分置いて室温に戻します。

※ 子どもの手の届くところに置かないでください。

※ シリンジを電子レンジや湯せんであたためないでください。

※ シリンジを振らないでください。



❗ 室温で15～30分置いても冷たいときは…

薬液が冷たいと刺激となって痛みを感じる場合があります。

季節や室温の状況に応じて30分以上かけて室温に戻してください。

② 置き場所の表面を清潔にします。

- 明るく、平らな場所(テーブルなど)を選び、十分な明るさを確保します。



③ 両手を石鹸^{せっけん}でしっかり洗います。

- 手洗い後は清潔なタオルなどで水気を十分にふき取ります。



4

② に自己注射準備マットを置き、注射に必要なものを並べます。

- シリンジは、プラスチックケースから取り出します。

※まだ針キャップをはずさないでください。

※自己注射準備マットが汚れたら、ぬるま湯で洗い、よく乾かしてください。



5

シリンジの確認をします。

- 外観に異常や破損は無いか
- 薬液に着色異物や変色は見られないか

※薬液に白色の蛋白微粒子^{たんぱく}がみられることがありますが、注射してもさしつかえありません。

※着色した異物や変色などの異常が見られた場合は使用せず、主治医もしくは看護師、薬剤師にご連絡ください。



〔全量を投与しない場合〕
薬液量の調整

- 注射針を上に向けて注射器を持ち、注射器の目盛りを確認しながら、少しずつ内筒を押して、内筒の先端のグレーのゴム部分の上部を主治医に指示された薬液量の目盛りに合わせます。



※ 注射薬液量が目盛りの間になる場合は、目盛りと目盛りの間に合わせて調節してください。

❗ 指示された薬液量より少なくならないように注意してください。

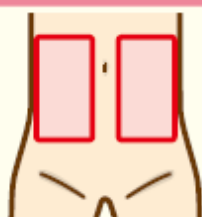
〔注射部位_関節リウマチの場合〕

注射する部位は腹部（おなか）、大腿部（太もも）、上腕部（うで）です。

どこに注射するかは主治医の指示に従ってください。

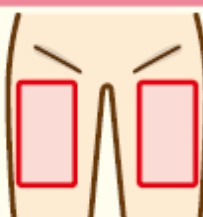
ご自身で注射する場合：腹部（おなか）、大腿部（太もも）

ふくふ
腹部（おなか）



へその周り5cmは
避けてください。

だいたいふ
大腿部（太もも）



そけいふ
鼠径部やひざに近い部位は
避けてください。

じょうわんぶ
上腕部（うで）



上腕部の柔らかい部分
（力こぶができる反対側）

ご家族の方が注射する場合：

上腕部（うで）、腹部（おなか）、大腿部（太もも）

- ^{ひ ふ びんかん}皮膚が敏感なところ、皮膚に異常（赤い、傷がある、硬いなど）がある部位は避けてください。
- 注射する部位は毎回変更してください。もし同じ部位に注射する場合は、**前回注射した部位より少なくとも3cm以上離して**ください。

〔注射部位_多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎の場合〕

注射する部位は腹部(おなか)、大腿部(太もも)、上腕部(うで)、臀部(おしり)です。

どこに注射するかは主治医の指示に従ってください。

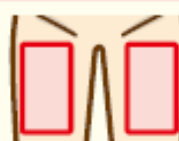
ご自身で注射する場合:腹部(おなか)、大腿部(太もも)

ふくぶ
腹部(おなか)



へその周り5cmは
避けてください。

だいたいふ
大腿部(太もも)



そけいふ
鼠径部やひざに近い部位は
避けてください。

じょうわんぶ
上腕部(うで)



上腕部の柔らかい部分
(力こぶができる反対側)

でんぶ
臀部(おしり)



ご家族の方が注射する場合:

上腕部(うで)、臀部(おしり)、腹部(おなか)、大腿部(太もも)

- ひ ふ びんかん
皮膚が敏感なところ、皮膚に異常(赤い、傷がある、硬いなど)がある部位は避けてください。
- 注射する部位は毎回変更してください。もし同じ部位に注射する場合は、**前回注射した部位より少なくとも3cm以上離してください。**
- ステロイドの局所投与を受けた場合は、その部位は避けてください。

〔注射のしかた（腹部）〕

①

注射部位をアルコール綿で消毒します。

- 注射する部位とその周辺を広めにアルコール綿で消毒します。

※注射するまで、消毒した部位には何も触れないようにしてください。



②

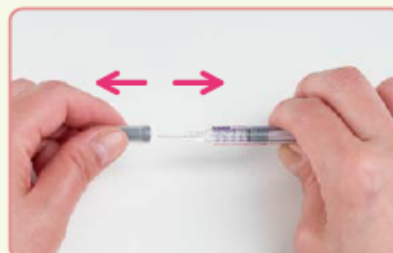
針キャップをはずします。

- シリンジを横に向け、針キャップを横に真っ直ぐに引っ張ってください。

※針に触らないでください。

※針には何も触れないようにしてください。

※内筒を引っ張ったり、押ししたりしないでください。



① 注射器内に多少の気泡が残っていても、さしつかえありません。

③

注射針をすばやく斜めに刺します。

- 消毒した部位の皮膚を軽くつまみます。
- 筋肉ではなく皮膚内に注射できるように、注射針をやや斜めに（45～90°の角度）で刺します。

横から見た図



上から見た図



④

刺した角度を維持したまま薬液を注射します。

- シリンジをしっかり持ち、内筒をゆっくり最後まで押し切ってください。



5

注射針を抜いて、アルコール綿で5秒ほど押さえます。

● 注射のあとが気になる方は絆創膏ばんそうこうを使用してください。

※注射した部位をもむと腫れることがあります。注射後はもまないでください。

※注射した部位の腫れがひかない、出血が止まらない場合は、主治医もしくは看護師、薬剤師にご連絡ください。



6

使用済みのシリンジは、針キャップをせずにそのまま廃棄ボックスに入れてください。

※詳細は「廃棄方法」をご参照ください。

※シリンジは、1回の注射で1本の使用です。再使用はしないでください。



〔注射のしかた（大腿部）〕

➡ 注射する部位

- 大腿部の柔らかい部分に注射してください。

※大腿部の内側や外側は避けてください。

痩せている方や大腿部の皮下脂肪が少ない方は、この投与方法は適しません。他の部位に注射してください。

※皮膚が敏感なところ、皮膚に異常（赤い、傷がある、硬いなど）がある部位は避けてください。



➡ 大腿部への注射

- アルコール綿で消毒した大腿部の柔らかい部分の皮膚を軽くつまみ、注射針をやや斜めに（45～90°の角度）刺します。

- シリンジをしっかりと持ち、同じ角度を維持したまま、内筒をゆっくり最後まで押し切ってください。

※その他の手順は「注射のしかた（腹部）」をご参照ください。



〔注射のしかた（上腕部）〕

上腕部への注射は、ご家族の方が注射する場合のみ可能です。

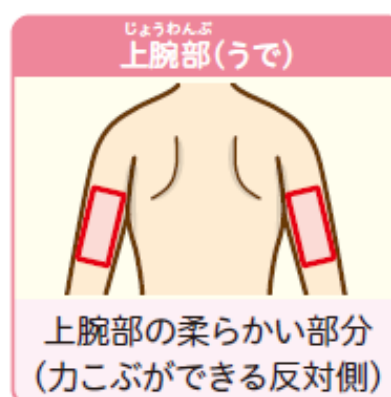
※ご家族の方は、注射をする前に十分な指導を医療機関から受けてください。詳しい注射部位は、主治医の指示に従ってください。

注射する部位

- 上腕部の柔らかい部分（力こぶができる反対側）に注射してください。

※ 痩せている方や上腕部の皮下脂肪が少ない方は、この投与方法は適しません。他の部位に注射してください。

※ 皮膚が敏感なところ、皮膚に異常（赤い、傷がある、硬いなど）がある部位は避けてください。



上腕部への注射

- アルコール綿で消毒した上腕部の柔らかい部分（力こぶができる反対側）の皮膚をしっかりと持ち上げ、注射針をやや斜めに（45～90°の角度）刺します。

- シリンジをしっかりと持ち、同じ角度を維持したまま、内筒をゆっくり最後まで押し切ってください。

※その他の手順は「注射のしかた（腹部）」をご参照ください。



〔注射のしかた（臀部）_多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎の場合〕

臀部への注射は、ご家族の方が注射する場合のみ可能です。
※ご家族の方は、注射をする前に十分な指導を医療機関から受けてください。詳しい注射部位は、主治医の指示に従ってください。



手順は、「注射のしかた（腹部）」をご参照ください。

〔注射のしかた（補助具を使う場合）〕

注射の操作をサポートするために、エタネルセプトBS皮下注シリンジ「TY」専用補助具があります。

補助具がサポートすること

- ①シリンジが固定されると同時に、針キャップが自動ではずれません。
- ②持ちやすくなり、安定して注射することができます。
- ③注射時に針が入る深さを一定にします。

補助具写真

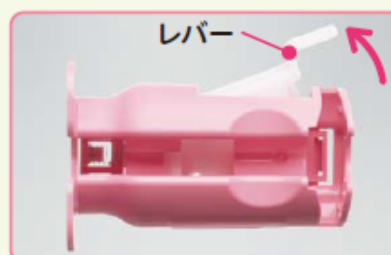


シリンジを固定する場合

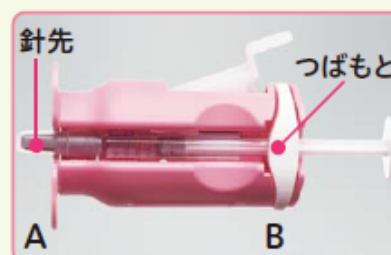


シリンジの固定を解除する場合

- ① 補助具のレバーを開きます。
※レバーが閉じた状態では、シリンジをセットできません。



- ② 針キャップ付きのシリンジを補助具に取り付けます。
 - 針キャップを付けたまま、針先をA側、つばもとをB側の溝に置きます。
 - ※薬液が見えるようにラベルの隙間^{すきま}を上にして置いてください。



3

注射部位をアルコール綿で消毒します。

- 注射する部位とその周辺を広めにアルコール綿で消毒します。
※ 注射するまで消毒した部位には何も触れないようにしてください。



4

補助具をしっかり押さえながらレバーを閉じます。
しっかり閉じると針キャップがはずれ、
シリンジが固定されます。

- ※ 針キャップがはずれたあとは、針に触らないでください。
また、針には何も触れないようにしてください。



❗ 注射器内に多少の気泡が残っていても、さしつかえありません。

5

注射針を素早くまっすぐに刺します。

- 補助具を皮膚に密着させるようにまっすぐ刺します。



6

刺した角度を維持したまま薬液を注射します。

- 補助具をしっかり持ったまま、反対の手で内筒をゆっくり最後まで押し切ってください。
※ 補助具を持った手の指で内筒を押して、片手で注射することもできます。



7

注射針を抜いて、アルコール綿で5秒ほど押さえます。

● 注射のあとが気になる方は絆創膏ばんそうこうを使用してください。

※注射した部位をもむと腫れることがあります。注射後はもまないでください。

※注射した部位の腫れがひかない、出血が止まらない場合は、主治医もしくは看護師、薬剤師にご連絡ください。



8

補助具を安定した場所に置き、しっかり押さえてレバーを開き、シリンジを取り出します。

※針先に触れると危険です。
触れないように十分ご注意ください。



9

使用済みのシリンジは、針キャップをせずにそのまま廃棄ボックスに入れてください。

※詳細は「廃棄方法」をご参照ください。

※シリンジは、1回の注射で1本の使用です。再使用はしないでください。



❗ 補助具が故障かな?と思ったら・・・

その補助具は使用しないでください。

医療機関に連絡し、新しい補助具と交換してください。

❗ 補助具が汚れたら・・・

アルコール綿で拭いてください。

保管についての注意

必ず冷蔵庫で保管してください。

薬液が凍らないように、冷蔵庫内のチルド室や冷気の吹き出し口の近くに置かないでください。

※冷凍庫には絶対に保管しないでください。



直射日光のあたる場所に放置しないでください。



子どもの手の届かないところに保管してください。



ご家族の方にもお薬（注射器）であることを説明し、誤って開封したり、捨てたりしないようにしてください。



お薬を持ち運ぶ際には、保冷バッグをご利用ください。

〔廃棄方法〕

- 使用済みのシリンジは、医療廃棄物です。一般ごみとして捨てることはできません。
- 使用済みシリンジの取り扱いには十分注意し、医療機関から指示された方法に従って処分してください。



廃棄にあたっての注意点

- 使用済みのシリンジは、針キャップをせずにそのまま廃棄ボックスに入れてください
 - 針キャップは家庭ごみとして廃棄することもできます。
 - 廃棄ボックスは、必ず子どもの手の届かないところに保管してください。
- ❗ 廃棄物の管理には十分ご注意ください。